

# 文教警察企業常任委員会会議録

令和元年10月31日

場 所 第3委員会室

令和元年10月31日(木曜日)

午前10時1分開会

会議に付託された議案等

○教育及び警察行政の推進並びに公営企業の経営に関する調査

○その他報告事項

- ・第74回国民体育大会の結果について
- ・第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策の取組について

出席委員(7人)

委員	長	渡	辺	創
副委員	長	安	田	厚生
委員		蓬	原	正三
委員		井	本	英雄
委員		濱	砂	守
委員		有	岡	浩一
委員		日	高	利夫

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

教育委員会

教育	長	日	隈	俊郎
副教育	長	亀	澤	保彦
教育次	長	川	越	淳一
(教育政策担当)				
教育次	長	黒	木	健一
(教育振興担当)				
教育政策	課長	中	嶋	亮
財務福利	課長	本	田	潤一
育英資金	室長	重	盛	俊郎
高校教育	課長	児	玉	康裕

義務教育	課長	東	宏	太朗
特別支援	教育課長	酒	井	裕市
教職員	課長	黒	木	貴
生涯学習	課長	新		純一郎
スポーツ	振興課長	萩	尾	英司
高校総体	推進課長	米	丸	麻貴生
文化財	課長	四	位	久光
人権同和	教育課長	鎌	田	剛史

事務局職員出席者

議事課	主幹	関	谷	幸二
議事課	主任主事	三	倉	潤也

○渡辺委員長 ただいまから文教警察企業常任委員会を開会いたします。

まず、委員会の日程についてであります。お手元に配付いたしました日程案のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 それでは、そのように決定いたします。なお、本日は国民体育大会の結果等の説明になりますので、出先機関の博物館長、図書館長、美術館副館長については出席がございませんので御了承ください。

執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時2分休憩

午前10時4分再開

○渡辺委員長 委員会を再開いたします。

報告事項についての説明を求めます。なお、委員の質疑は、執行部の説明が終了した後にお願いいたします。

○日隈教育長 おはようございます。教育委員会でございます。よろしくお願いたします。

まず、説明に入る前におわびを申し上げます。

教職員の服務規律の遵守につきましては、これまで繰り返し指導してきたところでございますが、報道がありましたとおり、10月28日に都城市立石山小学校の教頭が、道路交通法違反の疑いで現行犯逮捕される事案が発生いたしました。

生徒・児童の模範となるべき教職員による今回の事案の発生により、県議会を初め、県民の皆様方の信頼を大きく裏切ることになりましたことを、心よりおわび申し上げます。申しわけございません。

今後とも、市町村教育委員会と一体となりまして、全県的かつ組織的に不祥事の再発防止及び本県教育に対する信頼回復に努めてまいりたいと考えているところでございます。よろしくお願いたします。

次に、もう1点、これはお礼を申し上げます。

今月6日、定時制・通信制生徒生活体験発表会及び文化の集いの開催に際しまして、当委員会の代表として渡辺委員長に御臨席いただき、まことにありがとうございました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

ここからは、座って説明させていただきます。

常任委員会資料の表紙の中ほどの目次をごらんください。

今回、報告事項といたしまして、第74回国民体育大会の結果について、第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策の取組についての2件を御報告させていただきたいと思っております。

私からの説明は以上であります。詳細につきましては、この後引き続き担当課長から説明させます。よろしくお願いたします。

**○萩尾スポーツ振興課長** 第74回国民体育大会の結果についてでございます。

資料の1ページをごらんください。

今回の茨城国体は、9月8日から始まり、10月8日の総合閉会式をもちまして全日程を終了いたしました。

本県は、天皇杯順位30位台前半を目標にしていましたが、1の総合成績に示しておりますように、男女総合成績であります天皇杯得点は718点となり、昨年から順位を2つ下げ、41位となっております。また、女子総合成績であります皇后杯は442.5点となり、昨年から順位を2つ下げ、42位となっております。

2には、平成22年度からの競技得点の推移を示しております。参加点400点を除く今大会の競技得点は318点でありました。その内訳を3に示しております。

表の下の段の成年・少年別の競技得点にありますように、成年が146.5点、少年が171.5点と成年、少年とも昨年を30点程度下回りました。

4には、入賞競技を示しております。

(1) 団体競技では、ソフトテニスの成年男子の2位を初め、バスケットボール競技少年女子の3位タイなど、5競技8種別で入賞がありました。

次のページをごらんください。

(2) 個人競技では、一番上にある陸上競技で、成年少年男子共通4×100メートルリレーや、上から3つ目にありますボクシング競技少年男子、松野選手の優勝など、10競技47種目で入賞がありました。

全体では、昨年を6種目上回る55種目の入賞があり、幅広い種目で入賞できたこと、中でも40年ぶりに入賞したり、今までとれていなかった未普及競技の種目で入賞できたことは、大きな成果であったと言えます。

入賞種目は、昨年度を上回っているものの、競技得点が伸びなかった背景として、今回活躍

が期待された団体競技の不振が挙げられます。

今年度、本国体の予選を兼ねた九州ブロック大会が佐賀県で開催され、昨年度より2種目多い19競技39種目が予選を突破したものの、期待されていた団体競技が突破を果たせないなど、危機感を持って臨んだ大会となりました。

そのような中でも「チームみやぎき」を合い言葉に、監督・コーチ・選手、そしてそれを支えるドクターやトレーナーが気持ちを一つにして最後まで粘り強く戦っていただき、本県選手団の活躍する姿は、県民の皆様に元気と勇気と感動を届けることができたと思っております。

しかしながら、今回目標を達成できなかったことは大いに反省し、現状や課題をしっかりと分析し、次年度以降も引き続き覚悟を持って取り組まなければならないと思っております。

続いて、資料の3ページをごらんください。

第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策の取り組みについてであります。

1の本県の競技力の現状であります。過去5年間の天皇杯順位は40位前後を推移しており、少年競技力は安定感に乏しく、女子競技力は大変低い状況にあります。

また、現状を分析してみますと、成年種別の有望選手が不足しているほか、競技団体の推進体制や練習会場等の環境が十分に整備されていないなどの課題が山積みしております。これらのことが、競技力の低迷につながっていると分析しております。

2にあります、今後の競技力向上対策の取り組みであります。7年後の国民スポーツ大会に向け、官民一体による対策本部を設置し、総合的な競技力向上対策をまとめた基本計画に基づき、以下の4つの柱に従って、積極的に推進していくこととしております。

(1) 組織体制の整備・充実では、競技力向上対策を効果的に実施するため、競技団体等の意識改革・組織強化や連携強化に取り組んでいく必要があります。

(2) 選手の発掘・育成・強化では、全国で活躍できる少年・成年選手の競技力向上に向け、ジュニア有望選手の発掘・育成・強化や強化指定校制度の充実、ふるさと選手支援、有望社会人アスリート等の確保に取り組んでまいります。

また、未普及競技の育成や女子選手の強化にも取り組んでまいります。

(3) 指導体制の充実・強化では、優秀な指導者の養成・確保や効果的な指導体制の強化を図るため、全国トップレベルのアドバイザーや県内指導者の派遣研修等を活用し、指導体制の充実・強化に取り組んでおります。

また、教員採用スポーツ特別選考制度等を活用した優秀指導者の計画的な確保に取り組んでまいります。

(4) 環境条件の整備では、競技力向上対策を円滑・効果的に進めるため、特に練習施設が整備されていない競技、不足している施設等についての計画的な配備に取り組んでまいります。

来年開催される鹿児島国体や、7年後に開催される第81回国民スポーツ大会に向け、成果・課題をしっかりと検証し、関係機関と連携を図りながら、競技力向上基本計画に沿って選手の育成・強化などにしっかりと取り組んでまいります。

なお、総務政策常任委員会におきましても、国民スポーツ大会の開催運営に関する説明が行われておりますので、資料を別冊で配付したところであります。

説明は以上です。

○渡辺委員長 執行部の説明が終了いたしました

た。質疑はございませんでしょうか。

**○蓬原委員** 2ページで、九州ブロック大会で期待された種目、競技が、残念ながら全国に行けなかったという説明がありましたが、期待された競技種目は何だったのか教えてください。

**○萩尾スポーツ振興課長** 特に、例年、ブロックを通過して、本国体で点数をとっている団体競技——特にサッカーの成年男子、旭化成の選手を主体としたソフトボール、成年の軟式野球。団体競技は点数が高いものですから、このあたりが例年出場し、入賞することを見込んで、30位台前半を考えておりましたが、九州ブロックを突破しなかったことと、本国体で、ソフトボールが1回戦で負けたことで、少しもくろみが狂った状況がありました。

**○蓬原委員** 2期目でしたか、知事の公約に30位台前半を目指すというのがあって、教育長も総合政策部で大分知恵を絞られたと思いますけれど、この公約実現は、今でも、まだ生きていて、目標としてやっていらっしゃるんですか。

もう3期目になったから、あれはもういいという世界ではないんですよね。これは教育長が答えるべきかな。

**○日隈教育長** 議会の本会議においても、30位台前半、宮崎開催の第81回大会では天皇杯を目指したいと、知事みずから表明させていただいております。

その目標を受け、今回は30位台の前半を目指して取り組んで、きょう結果を報告したところですけれども、次年度以降、これを30位以内、そして20位台にと、徐々に上げていく計画で進めてまいりたいと考えております。

したがいまして、知事の公約は、既に議会に対しても申し上げたとおり——正直、最終的にとれるかとれないかというのは7年後になりま

すが、それを目標に取り組んでいく姿勢には変わりございません。

これからもどうぞ御支援をお願いいたします。

**○蓬原委員** 競技力向上対策の取り組みについても関連するわけですが、ワールドアスリート育成事業で、少年のときからの育成をやっておられました。今選手になっている時期ではないかと思うんですが、その事業の成果とのかかわりで、どういう選手が出場して、どうだったのか、状況を教えてください。

**○萩尾スポーツ振興課長** 現在、5回目を選考しまして、今、4年目の選手が育成を受けていることになります。

ことし、初めて中学を卒業いたしまして、高校1年生がちょうど活躍をしている状況でございます。その中で、今一番いい選手は、自転車競技の女子の選手で、JOCオリンピックカップで、全国優勝しました。また、国体にも陸上競技で1人、選手として入っています。

ただ、高校生になりますと、レベルが急に上がりますから、県の総体等での上位入賞は、特に陸上等で何人もいるんですが、全国につながる選手についてはそういう選手が育っておりません。

中学校については、例えば水泳競技で、これは17歳以下等になるんですけれども、優勝したりとか、ゴルフで優勝者ということで、結果が徐々にあらわれてきている状況があり、楽しみにしているところであります。

**○蓬原委員** あとは指導者です。教員採用スポーツ特別選考制度もあるわけですが、何人かの専門的な方が採用されたという話は聞くわけですが、具体的には今、何名の先生方がどういう種目で採用されているのか、わかれば教えてください。

○黒木教職員課長 ここ数年ですと、平成30年度が1名、ウェートリフティング、平成29年度が同じく1名、アーチェリー。平成28年度が3名、バレーボール、自転車、フェンシングで採用されています。

全体で行きますと、この制度が始まりましたのは平成9年からですが、現在33名が採用されております。

○蓬原委員 いろんな種目があるんでしょうけれど、33名というのは、ほぼその種目を網羅していると考えていいんですか。

○黒木教職員課長 かなり多数——大概の種目であり、一番多いのは柔道の4人になります。

○蓬原委員 あとは予算です。議会でも議論があったと思いますけれど、当然、これだけの競技力向上に取り組んで、その成果を絶対、結果はわからないにしても守るとするならば、やはりそれなりの予算はいるだろうと思います。このあたりの予算的な対応はどうなっているのでしょうか。

○萩尾スポーツ振興課長 我々も過去10年間の先催県の状況を調べさせていただきました。いろいろ調べてみますと、平均して大体40億かかっている状況があります。

ただ、いわゆる大都市圏は、企業とか大学等もありまして、その選手がそのまま出ればというのがありますが、宮崎の場合は、やはり中央の強いところから離れている状況や、大学、実業団もないということで、そこあたりをめどに、どれぐらいの予算がかかるのか検討している状況でございます。

○蓬原委員 鹿児島が来年です。この前、観光議連があって、向こうの担当者の方が、大会が終わった後で、大会のコンセプトからいろいろ詳しく御説明いただいたところでしたが、準備

室みたいなところに、宮崎県から鹿児島県に職員が派遣されているんですか。それは確認されていませんか。

○萩尾スポーツ振興課長 こちらは確認しておりません。

○蓬原委員 ほかの部ではないですか。わからなければいいんですけど、もしかしたら都市計画か何かにいっしょののかなという話を鹿児島の県議会議員から聞いたことがあって。

何を言いたいかというのと、せっかく近くの鹿児島県で準備されて、当然我々と同じように天皇杯も1位、皇后杯も1位になるという目標を掲げておられることは間違いのないわけで、もう遅いのかもしれませんが、派遣されて、鹿児島の取り組みを研究というか調査をしていくと非常に効果的ではないのかと。ほかの施設のこともありますので、ほかの部から行っていないのかと思ったりしたところですが。

○日隈教育長 蓬原委員からのお話は、熊本県と鹿児島県と人事交流を相互にさせていただいておりますが、その職員が多分、鹿児島県に派遣されているというお話であろうと思います。

いずれにしても、鹿児島県は来年開催で、先ほど担当課長からも報告しましたが、鹿児島は今、選手も施設も一番充実を図っているところなので、九州大会で、かなり鹿児島にやられたなという部分もありますけれども、学ぶことは多いですので、そういった話についてはこれからも十分情報収集して生かしていきたいと思っております。

また、選手強化の話で申し上げますと、例えば団体競技は、やはり点数が高いということがありますが、例えば少年のサッカーは、1年おきにあるんです。宮崎開催のときは、サッカーの少年が入るんです。このように競技が変わり

ますので、その対応も含めて、これから詰めていきたいと思っています。

**○蓬原委員** 先ほど、実業団の話がありました。確かに、宮崎の場合は実業団の選手は少ないと思うんですけど、例えば、県内にある企業、今結構業績のいい会社もあるわけですけど、1名でも2名でもいいから、そこに選手を雇っていただいて、練習、強化は県が主体でやるということはできないのか。

昔からこの議論はあるんです。県内の企業がスポーツチームでもいいし、個人でもいいわけですけど、雇っていただいて、競技力を上げていくという、その辺の企業に対する働きかけはできないものでしょうか。

我々個人的には、地元の飲み会で会ったときに話はしたりしていますけれど、中には前向きな社長さんもいらっしゃいます。どうでしょうか。

**○萩尾スポーツ振興課長** ありがとうございます。実は、いわゆる社会人のアスリートを今、県体育協会で競技団体からヒアリングしまして、就職等をつなぐ役割の方もおられて、実は何人か入っている方もおられます。その中で、成年女子の選手が点数をとっている状況があります。

これは先催県の情報を聞きまして、県内の企業とマッチングして、トップレベルの競技力を持つ方を就職あっせんといいますか、そういう形でやろうということで、今年度、実は社会人アスリート等確保専門委員会という専門委員会を立ち上げまして、検討段階に入ってきている状況があります。

その中に、商工会議所連合会の方とか、いろんな経済団体の方等に入っただいて、1回委員会は終わりました、今の現状等をお話させていただきつつ、実際、実施に向けて本県も取

り組んでいこうという動きを始めたところですので、今後そういう形で進めていきたいと考えております。

**○有岡委員** まず、1ページの資料で、例えば、成年女子が昨年度よりも成果が上がっている。その背景には、企業に務めていらっしゃる方たちの点数が若干上がってきている、そういった意味では大変素晴らしいことですが、ただ成年女子がトップアスリートとして、7年後までずっと活躍できるかどうかは課題だと感じています。

そういった意味では、今のトップランナー、トップの選手が次の指導者になるといった、小中高連携した指導体制をつくる。そうしないと、7年後に成績が上がってくることはないのかなと思っています。そういうバックアップ体制をつくる必要があると思うのですが、その辺の体制について、どのような取り組みをしているのかお尋ねいたします。

**○萩尾スポーツ振興課長** 非常に貴重な御意見だと思います。例えば、ある企業の女子選手は、陸上競技なんですけど、実は強化指定校と一緒に練習を現在やっております、その方がいわゆるシンボルアスリートみたいな形で、高校生にもその技術が行き渡っている状況があると思っております。

ですので、今後そういう社会人のアスリートの方とか、現在いる選手と少年が合同練習会などを重ねまして、両方がスキルアップしていくことができるかなと思っております。

来年開催の鹿児島県にお聞きしましても、そういう有力な成年の方が少年の方に教えることで、実は少年もすごく競技力が上がってきているという現状がありますので、そういうことに取り組んでいくのも一つの方法であります。貴重な御意見ありがとうございました。

**○有岡委員** そういう中で、平成26年の長崎大会では19位に成績が上がった。この背景は、団体競技で2種目優勝したからと記憶しておりますが、今回、サッカー成年、ソフトボール、野球の3つが余り成績が上がらなかった。これについては、原因がいろいろある中、鹿児島県が近いことで落ちたということがありますが、この辺をもう少し、しっかり対策をとっていかなければ、来年の鹿児島大会で成果が上がってこないのではないかと思うのですが、その辺の取り組みの状況をお伺いいたします。

**○萩尾スポーツ振興課長** ソフトボールは、1人ジャパンの方もおりまして、ブロックは1位通過でしたが、実は1回戦の相手の静岡県にも、ある有力な会社の、ジャパンの方がおられたということで、1回戦は入りが非常に難しいのですけれど、少し波に乗れずに、敗退したところですので、力はあると思いますから、ソフトボールについては今後も期待しています。

サッカーについては、実は県内に有力な社会人チームがあります。大学もありますので、混成で九州ブロックを戦ってもらいましたが、大会のときにけが人が出まして、エースが2人出場できないという状況等があり、少し波に乗れずに、1回戦は勝ちましたけれど2回戦で負けましたので、けが等のケアを十分やって、パフォーマンスを上げていくことが大事かと思えます。

軟式野球については、競技団体で選抜大会とかをやって国体に出るチーム等を決めていただいているんですけれども、選抜の方法のあり方やピーキングの持っていく方で、ちょっとずれたのかなと。

実は、県内の軟式野球のチームは、その後の大会で、全日本で準優勝しているんです。ちょうどこのときにだめだったということがあります

から、コンディショニング等も含めたチームへの対応、そのあたりを考えていかなとイケないのかなと思っております。

**○有岡委員** 各団体の思惑もあるんでしょうし、国体が全てでなくて、団体によっては価値観もそれぞれありますが、いずれにしても野球についても、また今後頑張ってもらえるということで期待しております。

次に、資料3ページに、競技力向上対策本部を設置していくとありますが、こういったメンバーを対策本部に位置づけしていらっしゃるのかをお伺いいたします。

**○萩尾スポーツ振興課長** 対策本部は、上から本部会議、強化対策委員会とそれぞれ強化専門委員会という形で3つの会議がありまして、本部会議は21名で、県、市町村、産業経済企業、体協、学校関係、学識経験者で構成されております。これが郡司副知事を本部長とした対策本部になります。

その下の強化対策委員会では、今言った団体の事務局長のような方で、29名で構成しております。

また、具体的な強化対策を話し合う強化専門委員会は、ワーキンググループといいますか、それぞれ本課あるいは体協、学校体育団体、現場のそれぞれの競技団体の主な方を呼びまして、18名で構成しているところであります。

**○有岡委員** 組織の説明をいただきましたけれど、特に学校関係の中でお尋ねしたいと思いますが、競技力を向上させる中で、きょうここにいらっしゃる方は県の関係者ですから、公立の関係者が多いわけですが、民間企業と公立、それと少年男女で行きますと、私立の学校、こちら辺の強化が必要だと思っているんです。そういった意味では、学校関係の中で私立のメンバ



一がどれくらい入っているのか、気になっているものですかからお伺いいたします。

**○萩尾スポーツ振興課長** この委員会の中には、私学は\*入っておりません。

**○有岡委員** 少年女子が大変弱い。これは、やはり私立にも力を入れていただかないと大変厳しいなと感じているんです。私立は教育委員会ではなくて総合政策部に位置づけられているかもしれませんが、やはりもう少し、強化の仕方を考えないと、本部の中で、そういった意見をもっと反映していただく必要がありますし、各団体の中からは当然出てくるわけです。やはり今後のためにも検討いただけたらいいと思いますし、私立が都市部は強いわけですから、そこら辺の体制もつくる必要があると思っていますが、ぜひ答弁いただきたい。

**○萩尾スポーツ振興課長** 済みません。ちょっと訂正させてください。

実は、強化対策委員会の中に、競技団体の関係者の中で私立学校の先生が入っておりますし、また、県でも私学を担当します、みやざき文化振興課長に入っていて、当然いろんな私学の強化の御意見もいただいております。

また、高体連も、県立だけではなく私立も含めて高体連をつくっております。当然、特にボクシング等は、日章学園の子供たちが全国に通用する形で頑張らせていただいておりますし、その卒業した選手が成年でもことしは点をとってくれました。そういう形が理想になるのかなと思っていますけれども、当然私学の先生方には、強化指定校等も指定をさせていただいて、一緒に頑張らせていただいている状況がありますので、私学は別ということではなく、一緒に、選抜チームも私学も県立も一緒にやって大会に臨んでいる状況ですから、そういう形では「チ

ームみやざき」一丸となって、一生懸命やっているということですので、よろしくお願いたします。

**○有岡委員** 今、お話を伺う中で、やはり優秀な選手がどうしても県外に出ていく傾向もある中で、県内の公立、私立、それぞれ強化をやっていないと、県内だけで完結する、よそからは当然、選手が来ていただくわけですが、そういった選手を育てる土壌をしっかりとつくと、よその学校に行き、そして就職し、よそで活躍する経緯もあるようです。やはり県全体で盛り上げていくための土壌づくりをしっかりとやらないといけないと考えていますので、40番台で推移していると、やはりまだまだ盛り上がってこないんだなと思っています。公開競技等も含めて、県全体で盛り上がるような仕掛けを期待していますし、来年の鹿児島国体のときに宮崎の真価が問われる、見えてくるのかなと考えていますので、ぜひよろしくお願いたします。

**○渡辺委員長** ほか、いかがでしょうか。

きょうは、その他を設けておりませんが、冒頭、教育長の御発言がございました件等も含めてございましたら、ここでお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○井本委員** 何か今、テレビや新聞で、イングランド戦のラグビー観戦について、誘致したからお礼に行ったのだらうけれど、あれはどこの所轄になっているのか。ここじゃないの。

**○日隈教育長** 済みません。窓口としましては、商工労働観光部のスポーツランドで担当しております。

**○有岡委員** 2点ほど、お話をさせていただきますが、まず、陸上競技場の話で、資料に平成28年の実績が出ておりますけれども、去年は夏場

※このページ左段に訂正発言あり

にトラックの改修で使えなかったということがありました。そしてまた、ことしも修理のために使えない、2年続けて使えない状況があるんです。その経緯をお伺いします。

**○萩尾スポーツ振興課長** 木花の陸上競技場は改修をやるうとしたときに、公認をとるためにいろんな形でやるんですけど、予算等を勘案して、内の2コースだけ最初にきれいにしました。それから、ほかのコースを今年度やっている状況だと思っております。

**○有岡委員** 予算の関係は当然あると思うのですが、1、2レーンだけ整備してしまうと、ある意味公認コースとして使えない。ですから、もっとそういったことは相談して、整備するときにはしっかり予算を確保して1回で終わるようにしないと、去年使えないで、またことしも使えないという、大変厳しい御指摘をされるものですから、もっといろんな方に相談して、そして1回で終わらせるような財政措置をする。スポーツ振興でこうやって国体の強化をしようと言っているときに、そういう無駄な時間を使う。これはやはり、財政的な立場から言っても厳しいなという指摘を受けても仕方ないと思います。

そこら辺は、もっとしっかり相談すべきだと思いますがいかがでしょうか。

**○渡辺委員長** ちょっと、所管も明らかにしてもらって御答弁いただけますか。

**○日隈教育長** 整備の関係は、県土整備部の都市計画課が所管しております。予算措置について2カ年——私も前職で聞いておりましたけれども、県土整備部の予算では競技団体とも一応話して、このようなことを2カ年にわたってという話は間接的に聞いておりましたけれども、このお話については、県土整備部にもまた伝え

ておきたいと思います。

**○有岡委員** なぜ、こういうことを申し上げるかといいますと、整備していただく立場としては、県が予算をつけてやってもらえる、だからもうそれ以上は言えないとか、いろいろ立場の違いであるわけです。ですから、もっとルールをしっかりと把握した上で、無駄のない工事をしていく、事業をしていくようにしないと、今回のようにただ2カ年予算がついたから2カ年でやる——それは行政としてはわかるんですが、利用団体からすると、2年間続けてこの時期に使えないのは大変マイナスですし、ほかの競技場を利用してみたら時計が止まっていて計測ができなかったり、いろいろなトラブルが起きているんです。

そういった意味で、予算も大事ですけど、やはりもっと全体を見て効率的にやらないと、この国体に向けての大切な時期に無駄な時間を過ごしているのではないかという思いがありましたので、あえてお話をさせていただきました。

また、先ほど教育長が謝罪されましたけれど、先生方がそういう基本的なところで、なかなか相談できない状況の中で、結局免許を持たないまま生活していらっしゃる先生たちの気持ちを考えると、神戸のいじめの問題もありますけれど、誰かに相談できる、そういう窓口がないのかなと。上司に相談できなくても誰かに相談できるような、今いらっしゃる1万人の先生方の相談窓口はないのか、お尋ねします。

**○黒木教職員課長** 今、御指摘がありましたとおり、まずは学校の中でというのがありますけれども、そういったことは非常にやりにくい。学校にも相談できないという職員に対しては、まずは我々教職員課の学校人事担当が一つ窓口としてございます。

ただ、県の教育委員会ですので、そこにもちょっと敷居が高くて相談しづらいといったような方のために、例えば県立図書館に設置しておりますけれども、学校相談窓口というのがありまして、そこでも悩みは相談できるような体制をとっています。

**○有岡委員** 苦言を申し上げるんですが、先生方にも社会人としてのプライドもあるでしょうし、いろいろな思いがあると思うんです。それでも、今回のような問題が発生しないためには、誰かに相談する、そして、それが絶対漏れない——安心して相談できるような窓口というものをしっかりとつくっていくと、いろんな先生方が思っていらっしゃる悩みが出てくるような気がするんです。

これは、先生だけでなく公務員の皆さんもそうでしょうけれど、やはりこういうことを一過性のものに終わらせるんじゃないかと、一つの教訓としてどこかで相談ができる——先生方が思っていらっしゃるような悩みが本当に相談できるようなものを、もう一度検討しておかないと。市町村任せとか、それだけでは解決しないような気がしておりますし、先生方の自尊心を大切にしながら相談できる場所をもう一度、ぜひ検討していただけるといいかと、その思いで要望しておきます。

**○渡辺委員長** 先ほどの件ですけれども、まだ身柄事案で恐らく教育委員会として、直接接見できているような状況じゃないだろうと思いますので、ちょっと誤解を生まないように、現時点で教育委員会として把握、認識している事実関係と、きょうまでの間に行われた、全部の先生方に向けた何らかの対応・対策について、その点だけ整理して、御報告をいただけたらと思います。

**○黒木教職員課長** 私どもが今把握している内容は、今回の違反の内容ですけれども、報道等でなされているとおり、宮崎市の高岡町内で、まずは携帯電話をナビゲーションがわりに使っていて、それを操作した。そこを警察に発見されたことをきっかけに逃走した。約1.5キロほど逃走しているわけですが、その間に、テレビの画面では出ていましたけれども、ちょうど高岡のジョイフルがあるところの交差点の一時停止を無視して、その先で停止した。その後、警察で当然職務質問があり、本人が、私は原付免許しか所有していないと述べたということで、逮捕になっております。

今回の事案はそういうことなんですけれども、私どもで現在確認しているところは、本人が、これまで免許証は、原付免許以外は持っていないということ。それから、通勤、出張の際にも自家用車をこれまで自分で運転していたところ把握しています。

これを受けまして、昨日、県の教育長名で、全ての市町村、県立学校に対して、緊急に運転免許証を管理職がお互い目視の上、有効期限を確認するといった緊急調査を行ったところです。

それまで、県教育委員会は何もしていなかったかといいますと、実は平成24年度に不祥事が多く発生した時点で、知事部局等に先駆けて、全職員に運転免許証の有効期限を必ず1年に1回チェックして管理職に提出するといった取り組みをしておりました。

それでは、今回なぜそういうことが起こったかということ、これはやはり自己申告といった面がありますので、今回の教頭については、今入っている段階の情報では、原付免許の有効期限をそこに書いて提出していたんではないかといったところまではわかっています。

午前11時3分閉会

○渡辺委員長 ありがとうございます。何かございましたら。

○蓬原委員 車の所有者がどうなっていたのかというのと、当然、対物とか保険も入っていなかったということですね。

○黒木教職員課長 私どもも、そういう点を大変疑問に思っているところなのですが、身柄を釈放されたのが昨日でして、都城市の教育委員会が本人に話を聞いている段階でございます。今、委員がおっしゃった点等について、今回、都城市の聞き取りで明らかになるか、もしくはなっていないければ、今後私どもも本人と会う機会がありますので、その段階でまた明らかにしていきたいと考えております。

○蓬原委員 車を運転できるということは、一時、免許を取得していた時期があって、運転できる技能は持っていたということですね、当然。

○黒木教職員課長 そうではありませんで、原付免許のみの所有であります。私どもが今の時点で確認している情報では、一度も普通免許は所有していないということです。

○渡辺委員長 他によろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 なければ、以上をもって教育委員会を終了いたします。執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前10時54分休憩

---

午前11時3分再開

○渡辺委員長 委員会を再開いたします。

その他で何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。

署 名

文教警察企業常任委員会委員長 渡 辺 創